

福島再生

REPORT

20

平成24年10月25日

毎週、福島の除染活動状況をお伝えします。

福島市



「水かけ祭り」境内の社屋でお神酒(みき)での酒宴めがけて用意された小桶で外から勢いよく水を掛ける豪快な祭り。お神酒は当番制で地元住民が仕込む。

福島市岡山の鹿島神社では840年続く県の重要無形民俗文化財、「水かけ祭り」が現在まで大切に伝えられています。毎年10月に行われていましたが、昨年は神社敷地内の放射線量が心配され、子どもの参加も多いことからやむを得ず祭りが中断されました。戦時中も続けられた水かけ祭りの中止は、長い歴史の上でも大変まれなことだそうです。

福島市の当初の除染実施計画では、鹿島神社の除染は平成25年度に実施される予定でした。しかし、「これ以上中止が続くと、祭りを守ることも難しくなる。今年は何としても実施したい」と、伝統を担う若い世代から声が上がります。

鹿島神社筆頭総代の齊藤功夫さんと総代の木村英雄さんは、今年の祭りの前に除染を実施してもらうため、市役所に何度も足を運びました。

福島市では、このような意見を反映し、地区毎に優先的に除染を行う場所を住民が選び、除染を早期に進める「地区ホットスポット」除染事業で※79箇所を決定しました。鹿島神社も、このうちのひとつとして、除染作業が9月下旬から開始されました。

2年ぶりの「水かけ祭り」は10月28日(日)開催されます。「除染してもらった以上、今まで以上に若い人たちと祭りを盛り上げていきたい」とほっとした表情で語る齊藤さんと木村さん。

伝統を通して、地域の人々がつながっていくのです。

伝統の祭りを守るため、
「地区ホットスポット」除染事業で
早期に除染が行われました。



岡山鹿島神社筆頭総代の齊藤功夫さんと総代の木村英雄さん。「祭りの準備が間に合うか心配しました」

※10月15日現在